

# 中上級日本語学習者の作文過程における辞書使用 — 辞書使用の詳細を可視化するデータベース作成に向けて —

鈴木 智美

【キーワード】 日本語学習者、作文、辞書使用、データベース、スキル養成

## 1. 本稿の目的

本稿の目的は、日本語学習者の作文過程における辞書使用について、その詳細を可視化することのできる作文データベースの構築に向けて、中上級日本語学習者の辞書使用を例とし、その試案作成と検討を行うことである。

具体的には、4名の日本語学習者の同意を得て作文課題を行ってもらい、その際の辞書使用の状況について、モニター録画および事後インタビューを通じてデータを収集した。得られたデータは情報一覧としてまとめ、中上級日本語学習者の作文過程における辞書使用についての考察の一助とするとともに、データベース化に向けたデータ収集手順の改善等の検討を行った。

## 2. 研究の背景

### 2.1 日本語学習者の辞書使用について

日本語教育の分野においては、これまでも学習ツールである辞書の充実の必要性は指摘されてきた。近年は、辞書の開発・作成を支援するためのデータベース構築などの大規模な研究開発も進められている<sup>1</sup>。

一方、より具体的に日本語学習者が文章作成時に辞書をどのように「使う」のかに着目した研究は多くはない。鈴木(2010, 2012a, 2012b, 2013a, 2013b)では、作文コーパスに基づき<sup>2</sup>、学習者の辞書使用が一因となり引き起こされていると

<sup>1</sup> 例えば、筑波大学砂川有里子研究代表による「汎用的日本語学習辞書開発データベース」の構築 (<http://jisho.jp.org/>) など。

<sup>2</sup> 「JLPTUFS 作文コーパス」(東京外国語大学留学生日本語教育センター) を使用している。このコーパス (CD 版) の詳細については、東京外国語大学留学生日本語教育センター 鈴木・中村(編)(2011) および「『JLPTUFS 作文コーパス』のご使用にあたって」([http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/SUZUKI\\_Tomomi/paper/JLPTUFS\\_Corpus\\_readme.pdf](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/SUZUKI_Tomomi/paper/JLPTUFS_Corpus_readme.pdf)) を参照されたい。

思われる作文中の不自然な表現を分析し、留学生を対象とした辞書使用についてのアンケートおよびインタビュー調査の実施を経て、日本語学習者のための辞書使用のスキル養成のポイントを日本語のレベル別に抽出・提示するとともに、学習者が日本語を使って何ができるのかを示す「Can-do」<sup>3</sup>の記述において、辞書使用に関する記述を加えるための試案を提示している。

しかしながら、個々の学習者が実際に文章課題を行う際に、どのように辞書検索行動をとるのかという点について、より具体的に解明する余地はまだ残されていると思われる。

## 2.2 日本語学習者の作文データベースについて

また、日本語教育研究に資するデータベースとしては、これまで、日本語学習における産出・成果物である学習者の作文そのもののコーパスは、日本語母語話者の作文との対照や、執筆者自身による母語訳、教師による添削情報を付すなどのいくつかの異なる視点を交え、種々の作成が行われてきた<sup>4</sup>。しかし、学習者の辞書使用という観点から見ると、その作文過程において学習者が辞書などの学習ツールを具体的にどのように使用したのかに着目し、構築された作文のデータベースは見られない。

本研究では、学習者の辞書使用を支援するための基盤となる研究として、学習者の作文過程における辞書使用状況の実際を情報として織り込んだ作文データベースの構築を考え、その試案作成を試みるものである。

---

<sup>3</sup> 例えば国際交流基金(2012)「JF日本語教育スタンダード」に基づく「Can-do」は、「みんなの『Can-do』サイト」(<http://jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>)にて公開されている。他にも東京外国語大学「JLC日本語スタンダードズ」(2011改訂版) (<http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/jlc-gp/doc/standards-j.pdf>) や、東京外国語大学「全学日本語プログラム」における「Can-do」項目開発(鈴木美加他(2012, 2013))など、それぞれの教育現場における教育目標や対象に応じ、「Can-do」開発が進められている。

<sup>4</sup> 例えば、「日本語学習者言語コーパス」(東京外国語大学グローバルCOEプログラム) (<http://cbllc.tufs.ac.jp/lc/ja/index.php?menulang=ja>)、「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」(東京外国語大学留学生日本語教育センター 伊集院郁子) ([http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/koukai\\_data1.html](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/koukai_data1.html))、「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース(対訳作文DB)」(国立国語研究所) ([http://jpforld.jp/contents\\_db](http://jpforld.jp/contents_db))、および「JLPTUFS作文コーパス」(東京外国語大学留学生日本語教育センター)(CD版)等がある。

<sup>5</sup> 対象者はいずれも、東京外国語大学にて交換留学生等を対象に開講されている「全学日本語プログラム」において、1年間の期間をかけて中上級レベル(レベルコード:500)および上級前半レベル(同:600)の日本語クラスの受講を終了した日本語学習者である。

### 3. 研究の手順

今回の調査研究では、実際に4名の日本語学習者に、ふだん使用している辞書を使いながら作文課題を行ってもらった。調査研究は以下の手順で行われた。なお、今回の調査研究は、辞書使用の実際を組み込んだ作文データベースを構築するための試案作成という目的に鑑み、必要に応じて手順の改善を行いながらデータ収集を進めた。

(1) 調査時期：2013年7月～8月(一人あたりの調査時間は1.5～2.5時間)

(2) 対象者：中上級レベル<sup>5</sup>の日本語学習者4名

(3) 調査方法：

①調査研究の目的<sup>6</sup>および方法を説明<sup>7</sup>

②同意書およびフェイスシート記入<sup>8</sup>

③辞書を使用した作文課題を実施(辞書は各学習者が持参したもの)

・作文中の手もとを録画

(学習者の左側にカメラを設置し<sup>9</sup>、作文紙面と辞書にフォーカス<sup>10</sup>)

<sup>6</sup> 本研究では、調査にあたってまず、調査の目的が日本語学習者の文章表現における辞書使用の実際を調べることであるということ、またこの調査をもとに、日本語学習者の効果的な辞書使用について考えていきたいということを説明することになっている。はじめにこのような目的は説明せず、まずは学習者の現実の姿についてデータ収集するという方法もちろん考えられる。しかし、辞書使用のスキルは、このような研究目的を聞いただけで、その場で急に身に付けられるような性質のものとは思われず、研究目的を説明することによって学習者の日頃の辞書使用の実態が大幅に影響を受けてしまうとは考えにくい。よって、本研究でははじめに明確に調査目的を説明する方法をとることとしている。また、本研究では、このような調査を経験することによって、学習者自身に辞書使用についての自覚や気づきが生まれたならば、それも学習者の辞書使用についてのスキル養成の1ステップとして否定しないという考え方に立つ。事後インタビューにおいても、学習者の辞書使用についての意識や調査を通じて感じたことなども、できるだけ聞き取ることを心がけたいと考えている。

<sup>7</sup> 今回調査に協力してもらったのは、いずれも学期期間中に本研究者とは互いに顔を見知った学習者であったため、調査に入る前にあらかじめ自己紹介をすることなどはなかったが、調査の目的等の説明に入る前に、学習者の夏休みの予定や帰国後の勉強について雑談するなど、緊張を和らげる工夫を行った。

<sup>8</sup> 今回調査に協力してもらった学習者には、調査終了後に、1点200～400円ほどの文房具類(クリアファイル、メモ帳、和紙シール等)を1～2点ずつ組み合わせで選んでもらい、お礼としてお渡しした。

<sup>9</sup> 今回調査に協力してもらった学習者はいずれも右手に筆記用具を持ち、机の上の作文用紙の左上あるいは右上の位置に電子辞書やスマートフォンを置いて作文を行っていた。辞書は、その位置に置いたまま、あるいは手元に引き寄せたり手に持ったりして使用していた。

<sup>10</sup> カメラは三脚を使用し、作文用紙(B4版横長の原稿用紙)の紙面全体を取めるため、上方からかなり下向きにセッティングすることとなった。

・調査者は録画をモニターしながら<sup>11</sup>、辞書使用箇所をチェック

④録画を再生しながら辞書使用の詳細（使用箇所、使用目的やその結果）を確認するための事後インタビュー

作文課題は、複数提示した中からそれぞれの学習者に1つ選択してもらった。提示したテーマは以下の表1の通りである<sup>12</sup>。字数は600～800字程度とし、字数がわかりやすいよう原稿用紙（横書き）を使用した。時間は60分間を目安とし、それぞれの学習者に、終了したと考える時点でその旨伝えてもらうことにした。

表1 作文課題のテーマ

①あなたの国の文化や習慣 <sup>しゅうかん</sup> の中で、ぜひ日本人に伝えたいと思うものは、どんな文化や習慣ですか。どうしてそれを伝えたいですか。例を挙げながら説明し、あなたの考えを述べてください。
②「いっしょに楽しく飲んだり食べたりすれば、人々は友達になれる」という意見があります。一方、「そんなことだけでは本当の友達になれない。友達になるためには、嫌なことやつらいことなどをいっしょにやってみるなど、もっと大切なことがある」という意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか。具体的な例を挙げながら、あなたの考えを述べてください。
③外国語を学習するコースで、宿題は必要だという意見と、宿題は必要ではないという意見があります。あなたはどう思いますか。具体的な例を挙げながら、あなたの考えを述べてください。

<sup>11</sup> 4名の学習者を対象に作文課題を実施したが、初めの3名については作文終了後に録画を再生しながら事後インタビューを行うのみとして、作文課題の実施途中の録画状況は同時モニターしていない。最後の1名の学習者の作文実施時には、録画状況をモニターしている旨、学習者に伝えた上で、離れた位置で同時並行的に作文時の辞書使用状況を画面で見ることとした。事後インタビューをスムーズに進めるための改善として、調査者による同時チェックを取り入れたものである。

<sup>12</sup> 初めの1名の学習者には、表1のうち①と④の2つのテーマを提示した。その後、他の3名の学習者には、①を除き、②～④の3テーマを提示した。①は、学習者がそれまでの学習過程において、自国の文化紹介などの機会に触れたことのあるテーマである可能性が高く、辞書を使用せずに作文をすることが可能と考えられたため、提示テーマから除くという変更を加えたものである。なお、テーマの選定の際には、東京外国語大学「全学日本語プログラム」において文章表現クラスを担当する高野愛子教員にも助言をいただいた。テーマ③は高野氏の案に基づく。

④「インターネット上のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス、例えば「Facebook」など）は、人と人がつながることができて、いい」という意見がある一方、「人と人は、インターネット上ではなく、<sup>じっさい</sup>実際に会って話すべきだ」という意見もあります。あなたは、SNSなどを使ったコミュニケーションについてどう考えますか。例を<sup>あ</sup>挙げて説明しながら、あなたの考えを<sup>の</sup>述べてください。

## 4. 辞書使用の実際

以下、調査研究に協力してもらった学習者別に、作文課題を行った際の辞書使用についてまとめ、考察を行う。考察にあたっては、ビデオおよびインタビュー結果に基づき作成した、データベース構築のための辞書使用状況の詳細一覧を資料とし、本稿ではまず探索的にそれぞれの学習者の辞書使用についての傾向と特徴的と見られる点を記述する。辞書使用状況の詳細一覧は、学習者別に後に表6～表9として掲げている。

### 4.1 学習者(1)

学習者情報と作文課題、および使用辞書は以下の表2の通りである。この学習者の辞書使用状況の詳細は、後に掲載する表6にまとめている。

表2 学習者(1)と作文および使用辞書

学習者について	
母語	モンゴル語
国籍	モンゴル
性別	女性
日本語学習歴	4年
来日経験	初めて
作文について	
テーマ	自国の文化・習慣
字数	760字
所要時間	約60分
使用辞書	電子辞書(和英辞典)

この学習者は、主として漢字表記を確認するために電子辞書(和英辞典)を使

用している。この作文テーマに関しては、漢字表記の確認以外に辞書使用は必要なく、知っている語彙・表現で書き上げることが可能であったとのことである。今回の作文では該当するものはなかったが、外来語のカタカナ表記を確認したい場合には、電子辞書の英和辞典を使うとのことである。

日頃から、文章を書く時には、自分が知っている言葉を使って説明するようにしているとのこと、辞書を使って表現方法を探すということはあまりないとのことであった。馴染みのないトピックについて文章を書かなければならない時は、ウェブで同様のトピックについて書かれた文章を探して読み、まずそこで用いられている言葉を自分で調べ、学ぶようにしているとのことである。漢字の読み方がわからない時は手書き入力で電子辞書を調べるとのことである。

今回の調査では、この学習者のすべての電子辞書使用箇所について、その入力方法を確認することは行わなかったが、日本語をローマ字入力する際に、音節単位でローマ字綴りをとらえず、ひらがなで表記された際の1文字に相当する単位でとらえ、キーボード入力を行っているらしいことがわかった<sup>13</sup>。電子辞書やオンライン辞書が普及してきている中で、日本語を対象とする場合の基本的な操作(入力)方法について、学習者が知らないままとなっている場合があるかもしれないことに注意しなければならないと思われる。

## 4.2 学習者(2)

学習者情報と作文課題、および使用辞書は以下の表3の通りである。辞書使用の詳細は、後に掲げる表7にまとめている。

表3 学習者(2)と作文および使用辞書

学習者について	
母語	インドネシア語
国籍	インドネシア
性別	女性
日本語学習歴	12年
来日経験	初めて

<sup>13</sup> 表6の中に記入しているが、例えば「特徴」という語を和英辞典で調べたい時に、「ちょ」の部分で「cho」あるいは「cyo」とローマ字入力するのではなく、「ti」(ち)と打った後に「xyo」(よ)と打つというように、文字単位で入力しているということであった。

作文について	
テーマ	宿題は必要か
字数	380字
所要時間	約55分
使用辞書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子辞書(和英辞典)</li> <li>・オンライン辞書(英語-インドネシア語)</li> <li>・辞書アプリケーション (日英、英日、英語-インドネシア語)</li> <li>(いずれもスマートフォンを使用)</li> </ul>

漢字の書き方を見たい時は、文字が見やすいことから電子辞書を使い、漢字の読み方を探したい時も電子辞書のタッチペンを使うとのことである。一方、言葉の意味や使い方が知りたい時は、スマートフォンの辞書アプリケーションをよく使うとのことであった。ただし、実際の辞書使用状況を見ると、語句の意味・用法を確認する際、スマートフォンの日英辞書アプリケーションと電子辞書の和英辞典については、併用しているようであった。

作文の所要時間に比して、全体の字数は380字にとどまっており、辞書使用状況を録画で確認すると、スマートフォンで複数の辞書アプリケーションを行き来したり、次々と例文を繰ってはいるものの、なかなか決定することができず、語句の選択・決断に時間がかかっている様子が見られる。事後インタビューでその時の状況を確認しようと試みたが、学習者本人も、自身の辞書検索行動について明確に覚えていないということが多かった。

#### 4.3 学習者(3)

学習者情報と作文課題、および使用辞書は以下の表4の通りである。辞書使用の詳細は、後に掲げる表8の通りである。

表4 学習者(3)と作文および使用辞書

学習者について	
母語	ブルガリア語
国籍	ブルガリア
性別	女性
日本語学習歴	4年
来日経験	初めて

作文について	
テーマ	宿題は必要か
字数	800字
所要時間	約50分
使用辞書	電子辞書(和英辞典)

この学習者は、日本語学習の比較的初期の頃から和英辞典を使うことに慣れているとのことで、電子辞書の中ではもっぱら和英辞典をよく使うとのことである。和英辞典は日本語の例文も多く、英語訳も出る上、漢字の書き方もわかるので使いやすいとのことである。さらに調べたい場合は、ジャンプ機能を使って電子辞書に搭載されている他の辞書を見るとのことである。

また、この学習者は自身の辞書の使い方に非常に自覚的であるという特徴が見られた。事後インタビューを通じて、辞書使用箇所、その目的、検索過程、判断の根拠などを整理して説明することができ、自分なりの辞書使用のスキルを身に付けていると感じられた。

#### 4.4 学習者(4)

学習者情報と作文課題、および使用辞書は以下の表5の通りである。辞書使用の詳細は、後掲の表9にまとめている。

表5 学習者(4)と作文および使用辞書

学習者について	
母語	トルコ語
国籍	トルコ
性別	女性
日本語学習歴	3年
来日経験	初めて
作文について	
テーマ	友達になるには
字数	700字
所要時間	約60分
使用辞書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子辞書(和英辞典、コロケーション辞典)</li> <li>・オンライン辞書(トルコ語-日本語)</li> <li>・辞書アプリケーション(英語-日本語)</li> </ul> (いずれもiPadを使用)

この学習者は、漢字表記を確認する際は電子辞書を、適切な語や表現を探す時にはオンライン辞書およびiPadの辞書アプリケーションを使用している。使用しているオンライン辞書はトルコ語と日本語の対訳辞書で、例文はないものの、日本語の訳が良いと思われるためよく利用しているとのことである。

この学習者も、事後インタビューでは自身の辞書使用について自覚的にとらえて説明しており、目指す語を探すために複数の辞書を手順よく使いこなしている様子がうかがわれた。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では、日本語学習者の作文過程における辞書使用について、その詳細を組み入れた作文データベースの構築に向けて、中上級日本語学習者の辞書使用を例として、その試案作成と検討を行った。

ここでは4名という限られた数の日本語学習者の協力を得て作文課題を実施したのみであるが、その中から見えてきたことを、学習者の辞書使用の側面、および辞書使用情報を組み入れた作文データベースの作成という視点に分けてまとめると、以下ようになる。

まず、学習者の辞書使用については、以下の2点が挙げられる。

- ・ 作文過程の辞書使用状況の可視化：学習者の辞書使用状況を見ると、産出された作文そのものには結果的に表れていないものの、そこに至るまでの間に何らかの形で辞書を検索しているという箇所が複数観察された。詳細な辞書使用状況の調査とそのデータベース化は、作文紙面に直接表れていない、作文途中の学習者の辞書使用の実態も含めて可視化することにつながると思われる。また、詳細なインタビューを行うことにより、学習者が何を意図してどのような手順で辞書を検索したのか確認することができる。
- ・ 辞書使用の意識化：学習者の辞書使用状況には個人差も大きいと思われる。また、学習者が必ずしもふだん自覚的に辞書を使用しているとも限らない。辞書使用のスキルアップの第一歩は、辞書使用行動をまず自覚的にとらえることだと言えるかもしれない。

また、データ収集方法の改善点・注意点としては、以下の3点が挙げられる。

- ・ 作文過程の録画方法：データ収集の補助手段として作文過程を録画する方法をとっているが、作文紙面と辞書のそれぞれにフォーカスし、調査協力者の手元をできれば2方向から撮影することが望ましいかもしれない。ただし、協力者に居心地の悪さや緊張感を与えることがないかなど、心理面での影響を考える必要がある。
- ・ 辞書使用箇所のチェック：使用した結果が作文の文章に反映しているか否かを問わず、調査協力者には辞書使用箇所のすべてにその都度しるしを付けてもらうようにする。同時に作文進行時には、調査者が録画面面を同時モニターし、調査者の方でも辞書使用箇所をチェックしておく。
- ・ 事後インタビュー：辞書使用の目的や結果などを詳細に把握するためには、やはり事後インタビューを丁寧に行う必要がある。このやりとりの中で明らかになることは多い。ただし、調査時間が長くなる可能性はあるため、調査協力者に対し配慮が必要である。

また、上記3点のいずれにも関わる点であるが、作文実施中の辞書使用について、調査協力者にその都度その行動について語ってもらい、記録(録音)をしておくという方法の導入も考えられる。ただし、これについてはその方法上の利点・欠点を含め、検討した上で導入するか否かを判断したい。

今後、作文本体についてはテキストファイル化を行い、辞書使用情報一覧との相互リンク付けを行った形でデータベース化を進めていく予定である。情報一覧の掲載項目についても再検討する。また、日本語学習者を対象とした辞書使用についてのスキル養成を実践し、それを通じた学習者の辞書使用についての意識変化等について、考察を進めていくことを次段階の課題としている。

表6 辞書使用の詳細：学習者(1) (母語：モンゴル語)

番号	使用箇所	目的	使用辞書	手順および結果	その他：注釈など
13601mm01	「祝日」の「祝」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典	①「じゅくじつ」と打つたため該当する語が出て来ない ②タッチペンで「祝」を書こうとしたが正しく思い出せない ③「お祝い」という別語を思い出し、「いわい」と和英辞書に入力	辞書によっては「じゅくじつ」と誤って入力しても、「じゅくじつ」と修正した上で候補の語句を提示する機能あり
13601mm02	「最初」の「最」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典	(入力の際のスペルについては未確認)	ふだんパソコンを使うので、簡単な漢字表記でも弱いとのこと この時の入力スペルは未確認
13601mm03	「特徴」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典	「とくちょう」を「to ku ti xyo u」と打って確認	「学校」は「ga xtu ko u」と入力しているとのこと 「to ku cho u」「to ku cyo u」という入力方法を初めて知ったとのこと
13601mm04	「高等」の「等」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm05	「段落」の「段」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm06	「成績」の「績」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm07	「得意」の「得」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm08	「分野」の「野」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm09	「科目」の「科」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm10	「演技」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm11	「花束」の「束」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm12	「模範」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm13	「文部科学省」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典	(入力の際のスペルについては未確認)	拗音は上記「特徴」と同様の入力か
13601mm14	「証明書」の「証」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典	(入力の際のスペルについては未確認)	同上
13601mm15	「難しさ」の「難」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典		
13601mm16	「将来」の「将」	漢字表記の確認	電子辞書・和英辞典	(入力の際のスペルについては未確認)	同上

表7 辞書使用の詳細：学習者(2) (母語：インドネシア語)

番号	使用箇所	目的	使用辞書	手順および結果	その他：注釈など
13602/d01	「学ぶ」	送りがなの確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d02	「新しい」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d03	「言葉」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d04	「覚える」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d05	「その言葉も・・・」で始まる文の前	適切な接続詞を探すため	スマートフォン の辞書 アプリケーショ ン； インドネシア語- 英語 英日、日英	①インドネシア語-英語の辞書アプリで、インドネシア語で“だから”を意味する語を入力し、英語“therefore”を探す ②英日辞書アプリで“therefore”から該当する日本語を探すが、候補がたくさん出てくる ③候補を見ているが、どれも適切かわからなかったため、結局接続詞は使用せず	
13602/d06	「ほとんど難しく」	語句の適切性の確認	スマートフォン の辞書 アプリケーショ ン；日英	「だいたい」を調べたが、使用せず。類義語として挙げられていた「ほとんど」を使う	
13602/d07	「難しい」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d08	「発音」の「発」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d09	「話しにくい」	送りがなの確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d10	「従って」	適切な接続詞を探すため	スマートフォン の辞書 アプリケーショ ン； インドネシア語- 英語 日英	①“therefore”に当たる言葉を使いたいと考え、日本語の候補になると恐られる言葉(「だから」「なので」「したがって」など)を日英辞書アプリで順に入力し、例文の英訳で意味を見る ②「それ」で始まる「それ・・・」という語がなかったが、日英辞書アプリで候補を探す ③インドネシア語-英語の辞書アプリでもう一度、べつのインドネシア語の言葉から英語の候補を探す	学習者本人は、このあたりの手順を明確には覚えていない 長い時間かかって検索していたが、結果的にどのような理由で「従って」を選択したかは不明
13602/d11	「私の経験は・・・」	語句の適切性の確認	電子辞書：和英辞典	「自身」という言葉を調べて「私自身」と書こうとしたが、結局使わず	
13602/d12	「経験」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d13	「勉強」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		

13602/d14	「私のような学生」	文法の確認	電子辞書：和英辞典	「よう」を検索して、「ような」「ように」に後続する形式を例文を見て確認	
13602/d15	「宿題があれば、…」の文	語句の適切性の確認	電子辞書：和英辞典	①「私」だけでなく、他の人も宿題は大切だと思っている」ということを言うため、「確かに」という言葉を使ったかった ②使い方に自信が持てなかったため、使用せず	
13602/d16	「宿題があれば、…」の文	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典	「他の人」の「他」を確認 文全体を書き換えたため、結局使用せず	
13602/d17	「宿題があれば、…」の文	語句の適切性の確認	スマートフォンの辞書 アプリケーション：日英	「面倒」を確認 文全体を書き換えたため、結局使用せず	
13602/d18	「宿題があれば、…」の文	適切な接続詞を探すため	スマートフォンの辞書 アプリケーション：日英	「更」の使い方を確認 文全体を書き換えたため、結局使用せず	
13602/d19	「もっと勉強しようと思っている」の「もっと」と	適切な表現を探すため	スマートフォンの辞書 アプリケーション：日英	①「もっと」の説明を読み、他の言葉で言い換えられ、いいか異なる ②特に候補がなかったため「もっと」を使用	学習者本人は、このあたりの手順をあまり明確に覚えていない
13602/d20	「宿題は学生たちのため、補足になる」の「補足」	適切な表現を探すため	スマートフォンの辞書 アプリケーション：英日 電子辞書：和英辞典	①英日辞書アプリで“supplement.”から日本語の候補を探す ②日本語の候補の中から「補う」を選び、電子辞書で確認 ③「～になる」という表現を使いたかったため、名詞「補足」を選び直し、和英辞典の例文を見て意味を確認	学習者本人は、このあたりの手順をあまり明確に覚えていない
13602/d21	「教室」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d22	「科目」の「科」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d23	「復習」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d24	「大切」の「切」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13602/d25	「忘れやすい」の「忘」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		

表8 辞書使用の詳細：学習者(3)(母語：ブルガリア語)

番号	使用箇所	目的	使用辞書	手順および結果	その他：注釈など
13603bg01	「意見」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg02	「むしろ」	語句の意味の確認	電子辞書：和英辞典	書いた後、和英辞典で例文を見て意味を確認	「逆」と同じような意味だったかどうかと思っただが、大丈夫だったとのこと
13603bg03	「主張」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		やさしい漢字だが、知っていたとしても確認のために見る人が多いとのこと
13603bg04	「学校」の「校」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg05	「殆ど」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg06	「新しい」	送りがなの確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg07	「繰り返しの練習」の「練」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg08	「練習」の「練」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg09	「つまらないものとして捕らえる」の「捕らえる」	語句の使い方の確認	電子辞書：和英辞典	①ブルガリア語でその意味を表す語を思い浮かべ、それに対応する語として「捕らえる」が思いついたので調べた。 ②初めに提示されていた意味(具体的な捕獲の意味)は違っていたが、例文を見ていくと「彼女は私の言った意味をとらえることができなかつた」というものがあつた。自分が表したい意味と同じだと判断	・1つしか例文はなかつたが、確認できたので大丈夫だと判断したとのこと ・「とらえる」という語が始めに思い浮かばなかつたら、英語から調べるとのこと ・電子辞書には類語辞典も入っているが、使い慣れておらず、例文も少ないのであまり使わないとのこと
13603bg10	「義務」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg11	「役に立つ」の「役」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		

13603bg12	「練習」に気を付けないうで」	適切な表現の確認	電子辞書：和英辞典	①あまりよく注意しないで、宿題をただやるだけという意味を表したかったので、書いた後、辞書でもう一度調べてみた ②「注意」を見ると、「注意を引く」という例文があったが、自分が使いたい意味ではない。 ③「注意を集中する」という例もあるが少し違う ④結局「気を付ける」のままとした	辞書を検索する1つ1つの過程が自覚的である
13603bg13	「練習」に気を付けないうで」	適切な表現の確認	電子辞書： 英和・和英辞典	①書いた後もう一度確認するため、英和辞典で“devote”を引く ②いろいろな日本語訳の中から「ささげる」について和英辞典でチェック ③さらに英和辞典で“dedicate”を引く ④さらに「ささげる」が出てきたが、「ささげる」は実は知らない言葉だったので使わなかった	結果的に、できあがった作文自体にはこのような辞書検索の過程は表れていない
13603bg14	「時間を無駄にする」	適切な表現の確認	電子辞書：和英辞典	①「時間をつぶす」は話し言葉か、作文で使ってもよいか確認したかった ②「時間」を引いて、「時間の無駄だ」の例が出てきたので使うことにした	
13603bg15	「練習」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg16	「効果」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg17	「休めない」	送りがなの確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg18	「ストレスがたまっている」の「たまる」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典	難しすぎる漢字だったので使用せず	
13603bg19	「始まった」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg20	「好奇心」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg21	「忘れれる」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13603bg22	「かれら」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典	①インターネットなどで「彼等」という表記を見るが、自然な表記だろうか ②辞書の見出し項目は「彼等」となっているが、例文では「彼ら」となっていたので、「ら」のほうが自然かと判断	

表 9 辞書使用の詳細：学習者(4) (母語：トルコ語)

番号	使用箇所	目的	使用辞書	手順および結果	その他：注釈など
13604tr01	「存在」の「在」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13604tr02	「人の心が和らぎ」	適切な表現を探すため	オンライン辞書： トルコ語-日本語 辞書アプリケーション： 日英 電子辞書：和英辞典	①心が「やわらかく」なり、相手に対して「いい人だなあ」と思うことをどう表現したらよいか ②トルコ語の「やわらかくする」という意味の語を引くと、「和む」「和らぐ」が出てきた ③日英辞書アプリで「和む」「和らぐ」の意味を確認 ④さらに電子辞書で例文を確認	・目指す表現を見つげるための手順をよく考えている ・使用しているトルコ語-日本語のオンライン辞書は訳語のみで、例文はない ・和英辞典のほか、電子辞書の中の国語辞典で意味を確認することもあるとのこと
13604tr03	「・・」と思い、	適切な表現を探すため	辞書アプリケーション： 日英	①「思う」以外に何かきれいな表現、あるいは「思い込む」のような語がないか ②和英辞書アプリで「思い込む」を見たが、適切ではなさそうだったので、普通に「思う」を使うことにした	
13604tr04	「感謝」の「謝」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13604tr05	「辛い」	漢字表記の確認	電子辞書：和英辞典		
13604tr06	「お金に困った」	適切な表現を探すため	オンライン辞書： トルコ語-日本語 電子辞書： コロケーション辞典	①「お金に困る」以外に、「経済的によくない」という意味の表現がないか ②トルコ語で「困難」に当たる語を引こうとしたが、その項目自体がなかった ③トルコ語ではそれを用いた「経済的な困難」という表現があるため、その日本語訳がどのようになっているか見たかった ④電子辞書の中の日本語コロケーション辞書で「金」を引き、表現を探す。特に候補となる表現がなかったので普通に「お金に困る」を使うことにした	いろいろな方法を考えて検索を行っている
13604tr07	「お金に困った」		iPad(手書き入力)	上記のコロケーション辞典の中に「金に飽かす」という表現があったので「飽かす」の訓読みを確認	直接作文に使用しない語だが、確認しておいたとのこと 使用アプリケーションの種類は未確認

13604tr08	「借り」	漢字表記の確認	電子辞書:和英辞典		
13604tr09	「戻る」	漢字表記の確認	電子辞書:和英辞典		
13604tr10	「その時を・・・乗り切った」		オンライン辞書: トルコ語-日本語	トルコ語から日本語「乗り切る」を見つける	
13604tr11	「銀行の銀行員」		オンライン辞書: トルコ語-日本語	①「銀行の銀行員」のように「銀行」を繰り返し さず、「働いている人」の意味で「員」を単独 で使えるかどうか ②トルコ語の「ある場所働いている人」とい う意味の語を引いたが、日本語の対訳は出 てこなかったため、「員」だけでは使わないの だろうと判断	
13604tr12	「対する」	漢字表記の確認	電子辞書:和英辞典		
13604tr13	「利益」の「益」	漢字表記の確認	電子辞書:和英辞典		
13604tr14	「反面」	適切な語句を探すため	辞書アプリケーション: 英日	英語“ on the other hand”から「反面」を確認	
13604tr15	「結局」	語句の用法の確認	電子辞書:和英辞典	まとめる言葉を使いたかったので和英辞典 で「結局」を引いて意味を確認	

## 引用文献

- 国際交流基金 (2012) 「JF 日本語教育スタンダード 2010 [第二版]」独立行政法人国際交流基金
- 鈴木智美 (2010) 「辞書の使用が引き起こす学習者の不自然な表現—『JLPTUFS 作文コーパス』の作文から見えてくること—」『2010 世界日本語教育大会 (ICJLE) 予稿集』(DVD 版) 1436-0-1436-9
- 鈴木智美 (2012a) 「留学生の辞書使用についての実態調査—東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 38 号 pp.1-16
- 鈴木智美 (2012b) 『留学生の文章産出時における辞書使用の実態調査—言いたい日本語はどう見つけるか—』平成 22 年度 (2010 年度) ~ 平成 23 年度 (2011 年度) 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 研究成果報告書 (課題番号: 22652047、研究代表者: 鈴木智美) 東京外国語大学留学生日本語教育センター 鈴木智美 (編著)
- 鈴木智美 (2013a) 「日本語学習者のための辞書使用のスキル養成のポイント—留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄の SCAT による質的分析を通して—」『東京外国語大学論集』第 86 号 pp.131-158
- 鈴木智美 (2013b) 「日本語学習者の辞書使用に関する Can-do 記述の試み—アンケート調査自由記述欄の質的分析をもとに—」『第 11 回日本語教育研究集会予稿集』pp.34-37
- 鈴木美加・藤森弘子・藤村知子・鈴木智美・中村彰・坂本恵・花蘭悟・伊集院郁子 (2012) 「日本語学習における目標記述をめぐって—全学日本語プログラムの can-do リスト作成に向けて—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 38 号 pp.155-166
- 鈴木美加・藤森弘子・藤村知子・鈴木智美・中村彰・花蘭悟・伊集院郁子 (2013) 「大学教育における日本語コースの Can-do 設定—日本語の技能を言語知識や態度と結びつけた記述の試み—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』第 39 号 pp.65-82
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター 鈴木智美・中村彰 (編) (2011) 『「JLPTUFS 作文コーパス」の構築』東京外国語大学留学生日本語教育センター教育研究開発プロジェクト「JLPTUFS 作文コーパス」報告書 (データ CD 別添)

Dictionary Use by Pre-Advanced Japanese Learners  
for Written Compositions:  
Building a New Type of Compositions' Database  
to Record the Processes and Details of Dictionary Use

SUZUKI Tomomi

The purpose of this paper is to investigate pre-advanced Japanese language learners' dictionary use during composition writing by making a sample of a new type of written compositions' database that records and visualizes the processes of learners' dictionary use in detail.

The procedure of the investigation is as follows:

- 1) The processes of 4 study participants using dictionaries while writing were recorded and monitored by a video camera.
- 2) Interviews were performed following (1), in order to clarify the details of dictionary use, while re-playing the recording.

Samples of the database include information such as at which parts of the compositions dictionary use occurred, for what purposes, and which types of dictionaries were used. The results of the searches, factors considered when selecting expressions, and if further searching was also performed was further clarified and noted.

It was found through the investigation that the following two points were important regarding both dictionary use and building the database.

First, this type of new database can show the details of processes of dictionary use, including cases that do not appear in the compositions themselves because the writers did not choose to adopt the expressions even after exploring the dictionaries.

Second, follow-up interviews can function as an opportunity to make the dictionary users aware of their own procedures in using dictionaries. Thus, the first step of training learners in the skills they need to use dictionaries effectively might lend the support to them to become conscious about their own processes of dictionary use.

